

子宮頸がんワクチンは12歳から16歳までなら今も無料で受けられます

コロナワクチンのおかげで(?)ワクチンという薬について一段と関心が向けられるようになりました。今から10年以上前になりますが、子宮頸がんが予防できるワクチン=HPVワクチンが日本にも導入されました。2013年度から HPV ワクチン接種に対する公費助成と定期接種が始まりました。

しかしながら新聞、テレビが中心となって接種後に疼痛 や運動障害が起こると大々的に主張、報道された結果、わずか 2ヵ月後に厚生労働省から接種の積極的勧奨の一時差し控えが発表されました。その結果、70%程度まであった接種率は1%未満にまで下がってしまいました。

どんな薬にも副作用はゼロではないので、それがどれくらいなのか実際に調べた報告があります。2015年の名古屋市の調査で、名古屋市内の若年女性7万人を対象に副作用について調べた結果、接種した人たちはしていない人たちよりも一つも症状が多くありませんでした(名古屋スタディといいます)。

一方、昨年2020年にスウェーデンから、HPVワクチンを接種した人たちは子宮頸がんに実際ならない、という報告がありました。世界の中で日本の女性だけが、今後も子宮頸がんに苦しめられることになりかねません。

昨年10月、ついに厚生労働省の通知から「積極的な勧奨をしない」の文言が削除されました。桐生市のホームページはまだ直っていませんが、実は今でも群馬県ホームページに書かれているように、12歳から16歳までの女子は無料でワクチンを接種できます。世界保健機構(WHO)はワクチンと検診で子宮頸がんを世界から排除できると声明を出しています。新型コロナ感染症ワクチンが感染拡大抑制の切り札として注目されている今、子宮頸がん予防ワクチンについてもぜひ一度お考えください。当院産婦人科外来ではHPVワクチン接種の予約受付をしております。

【産婦人科診療部長 鏡 一成】

